



杉谷ひろば

杉谷さんとともにまちを創る会
2018年 11月 5日発行

11月号 向日市上植野町西小路3-4
No. 93 杉谷ひろば(連絡先は頁下)

市民参加でまちを変えよう！ ホームページ：<http://sugi.pupu.jp/>

沖縄・新基地 民意無視の工事再開 日本全体の深刻な問題だ



杉谷伸夫・63才
向日市議会議員・無所属
上植野町イトーピア在住

9月30日、辺野古への新基地建設の是非を最大の争点に行われた沖縄県知事選挙で「新基地は絶対作らせない」と公約する玉城デニーさんが、沖縄県知事選挙史上最大の得票で圧勝し、明確な県民の民意が示されました。沖縄は今回も改めて「新基地NO」を表明しました。

また10月24日には、米軍普天間飛行場の辺野古への県内移設の賛否を問う県民投票条例が県議会で可決されました。4月末までに投票が行われ、全沖縄県民の意志が確認されることが決まりました。

ところが安倍政権は「沖縄県民に寄り添う」と言う美辞麗句とは真逆に、沖縄県の「埋立承認撤回」の効力を勝手に停止し、11月1日違法に辺野古の海の埋立て工事を再開しました。県民投票が行われる前に既成事実を作ってしまう姿勢です。県民無視も甚だしい暴挙です。

例えば京都に米軍基地を作るという国の方針に京都府が強く反対しているのに、国が話し合いもせず、一方的に工事を始めたらどうでしょう。地方自治は無いに等しく、もはや民主主義国家ではありません。これは沖縄だけの問題でなく日本全体の深刻な問題です。(11月4日・杉谷伸夫)

市民のご意見から

- 子どもが保育所に入れず、本当に困り果てています。もしも来春4月の入所もできないと、会社に居づらくなるため、追い詰められています。一刻も早く、善処していただきたい。至急できることとして幼稚園への支援を増やして預かり保育を充実することなどできないでしょうか。
- 高齢者に家賃を補助してくれる制度があるのですか？
⇒民間賃貸住宅にお住まいで、70歳以上の一人暮らしで住民税非課税の方に、家賃の一部を補助する制度があります。向日市独自の制度です。条件や手続きは市役所へお問い合わせ下さい。

取り組みの予定

- ★11月10日(土) 寺戸公民館・2F小会議室
「市民参加でまちをつくる会」
向日市まつりでの「沖縄戦と沖縄の米軍基地」写真パネル展示の企画・準備をします。
- ★11月17日(土) - 18日(日)
向日市まつりで、写真パネル展示
「沖縄戦と沖縄の米軍基地」
(競輪場内の屋内展示コーナーにて)

※事情により毎月1日発行のところ、5日発行に遅れましたことをお詫びします。

連絡先

ご相談はまずお電話を！ TEL 090-8384-5984(携帯) FAX 075-921-4101
メール peace@fa2.so-net.ne.jp ホームページ <http://sugi.pupu.jp/>



阪急バスの再編・廃止も検討

既存バス路線廃止は絶対反対

10月29日、向日市地域公共交通会議が開催され、宙に浮いていた南ルートについて阪急バス77・78系統の廃止も含めた再編の提案が出されました。次回の会議で方針決定する予定です。阪急バス77・78系統は、向日市の中・南部と長岡京方面をつなぐ重要路線であり、その廃止には断固反対です。

前回会議以降、南ルートの運行実現のため向日市と阪急バスが協議を行った結果です。既存の阪急路線バスの再編が必要だとする理由は、阪急バス77,78系統とコミバス・ルートの一部が重複していることと、現状でも阪急バスにとって全く採算が合わないため(採算ラインの3分の1～4分の1との説明)です。しかしこの路線は、JR向日町駅・阪急東向日駅から向日市の東部・南部を通過して長岡京方面をつなぐ重要路線です。向日市内だけを走るコミバスで代替できるものではありません。会議に出席した委員からも、この路線の存続が必要だとする意見が相次いだようです。

私は阪急77,78系統の「廃止案」は極論であり、論外だと思います。市ではコミバス南ルートと路線バスルートを時間帯で切り替える等、様々な方法も検討しているとのことですが、市民の利便性の向上に繋がらなければ意味がありません。

住民の足確保は重要施策 中途半端でない事業を

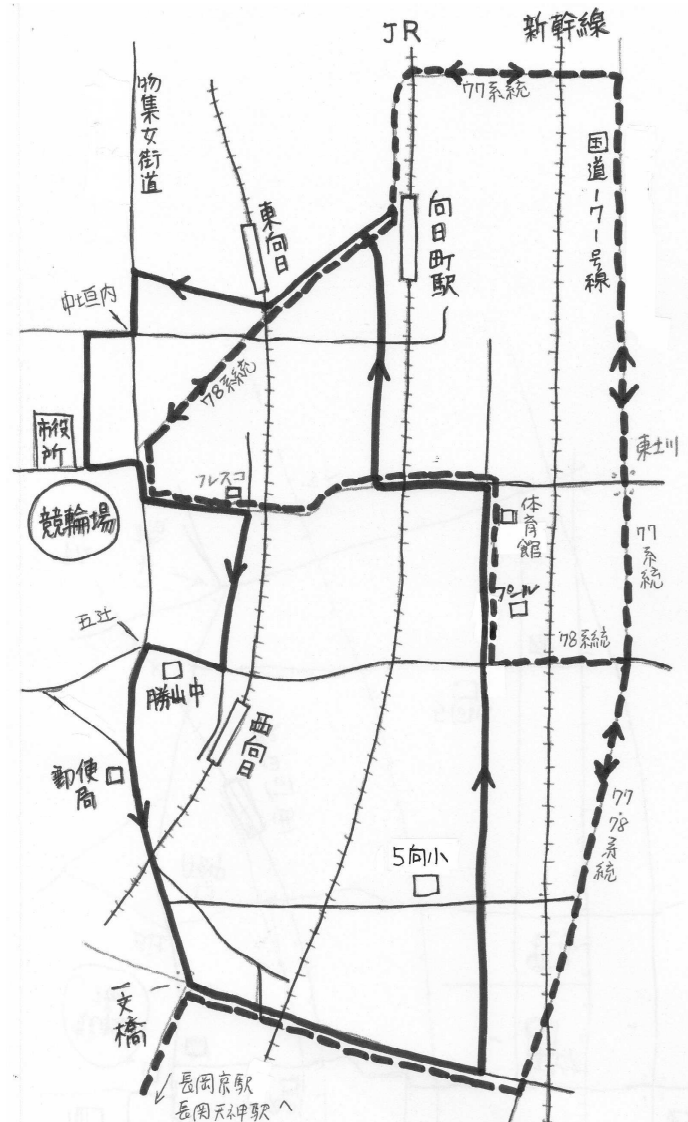
一方で、路線バス利用者の減少傾向が続く中で、赤字前提で民間事業者に運行を頼ることに限界があります。向日市は、市民の意向を受けてコミュニティ・バスを走らせるという決断をしました。地域住民の公共の足を保障することは市の重要な責務だと位置づけて中途半端でなく、しっかりした事業を行っていただきたいと思ひます。

次回の地域公共交通会議(11月～12月?)で方針決定するとのことですので、ぜひ皆様のご意見をお寄せ下さい。

提案のポイント

- 北ルート：10人乗りジャンボタクシーで都タクシーが運行(積み残しがあれば追加で配車)
- 南ルート：阪急バスと協議の結果、ルートの一部が重複する阪急バス77・78系統との同時運行は困難なため、この77・78系統再編を行って走らせる(77・78系統の廃止、コミバスルートとの統合など)。
- 次回の会議で方針を決める
- 年内運行開始は困難。来年3月までに南北ルート同時運行開始をめざす。

太線：コミバス南ルート最新案
点線：阪急77,78系統路線ルート



11・4関西団結まつりにて

沖縄への連帯寄せ書き渡しました!

東アジアの平和を 安倍政権は退陣! 改憲STOP 沖縄辺野古に基地いらない

11月4日、「東アジアの平和をつくろう、安倍政権は退陣! 改憲STOP、沖縄辺野古に基地はいらない」などを訴えて、大阪で関西団結まつりが開かれました。62人の市民の皆さんから寄せられた沖縄へのカンパと連帯の寄せ書き幟布を、辺野古新基地反対運動のリーダー・山城博治さん(沖縄平和運動センター議長)に手渡し、連帯の挨拶をしてきました。(杉谷伸夫)

山城博治さんの訴え

(沖縄平和運動センター議長)

●翁長前知事が命をかけたメッセージの力

本土マスコミは「オール沖縄はもう解体する」と宣伝し、政権側は本土から大量の動員をしてきた。しかし勝ったのは玉城デニー候補。翁長前知事が命がけて「埋立承認撤回」を表明し、亡くなるまでに発したメッセージに沖縄県民は奮い立った。翁長さんが命をかけたメッセージの力だ。沖縄はかつてないリーダーを失ったが、デニーさんはその力を受け継いで頑張ってくれると思う。

●「東アジアと共に成長する沖縄」への支持

選挙の最大の争点は、基地問題とともに経済問題だった。政府に頭を下げてカネをもらう政治ではなく、自分たちで経済を作り、財政を作る。翁長前知事が「東アジアとともに成長する沖縄」を構想してきたが、その結果経済は好転し求人倍率も1倍を超えた。これに対する評価が大きかった。



京都からのメッセージの幟布(右)を手渡す(左が山城氏)

●地元マスコミの力

知事選では地元マスコミの力が大きかった。琉球新報の社是は「戦争のためのペンはとらない」だ。特集を組み、隠さず全ての情報を報道した。

●「国は法を守れ」と言いたい

国は辺野古で無法の限りを尽くしている。土砂をトラック輸送に変更するには知事の許可が必要だが得ていない。さんご礁の移設も行わず、海底の岩礁破碎許可も得ていない。裁判をすれば国が負けるが結果が出るまで数年。その間に工事を進めてしまう作戦。「国は法を守れ」と言いたい。

●国は工事再開したが、埋立は絶対できない

実は辺野古の海は、政府がどんなにしても埋め立てることはできない。今埋め立てているのは浅瀬側だが、反対の大浦湾側は海底が深く超軟弱地盤で、数百メートルもの深さの土壌改良をしないと手を付けられない。政府も当初予想しなかった事態だ。そのためには沖縄県知事の承認が必要だが、デニー知事は絶対承認しない。

●「辺野古移設が唯一の解決策」は時代錯誤

朝鮮半島・東アジアの情勢は大きく変わった。「そんな中で20年以上も前に日米合意した辺野古への移設が普天間飛行場問題の唯一の解決策と言えるのか」という翁長前知事の言葉の通りだ。安倍政権を倒して東アジアの平和を作れば、軍事基地は要らないし、5兆円の軍事予算も要らない!



沖縄に想う

安野 洋子

9月30日、沖縄県知事選挙での玉城デニーさんの圧勝は、久しぶりにスカッとする朗報だった。翁長雄志前知事を受け継いだ玉城さんの親しみやすい人柄が、接戦と言われたのに大差を付けたのだと思う。沖縄駐留のアメリカ軍人と日本人女性の間生まれた玉城さんは、まさに戦後の沖縄そのものではないか。これだけ沖縄の「辺野古新基地」に反対する気持ちに、安倍政権は沖縄の心を理解しなくてはと思う。

私自身1989年、沖縄を訪れるまでは本当に知らないことばかりだった。沖縄の人々が使う「ウチナンチュウ」、沖縄以外の人々に使う「ヤマトンチュウ」という言葉も。沖縄戦に大きな働きをした「ひめゆり部隊」は映画で知っていたが、「白百合部隊」という女学生の部隊が存在したことも、その時知った。読谷村(よみたんそん)のガマ(洞窟)の中は、戦争で亡くなった人々の息遣いが残っていて生々しかった。しかし10年後に訪れた

ときは、石垣島や西表島では観光で生きていける沖縄を感じた。昔「琉球」と言われ、独立した国であった沖縄を感じさせられたものである。

それに近頃もうひとつ感動したことは、今年6月23日、糸満市摩文仁の平和祈念公園で開かれた沖縄全戦没者追悼式で中学3年生が朗読した詩だ。曾祖母に聞いた沖縄戦体験の歴史を書いた前半もすばらしいが、最後の部分だけを記してみたいと思う。

私は、今を生きている。みんなと一緒に。そして、これからも生きていく。一日一日を大切に。平和を想って。平和を祈って。なぜなら未来は、この瞬間の延長線上にあるからだ。つまり未来は、今なんだ。

大好きな私の島。誇り高きみんなの島。そしてこの島に生きるすべての命。私とともに今を生きる私の友、私の家族。これからも共に生きてゆこう。この青に囲まれた美しい故郷から。真の平和を発進しよう。一人一人が立ち上がって、みんなで未来を歩んでいこう。

摩文仁の丘の風に吹かれ、私の命が鳴っている。過去と現在、未来の共鳴。鎮魂歌よ届け、悲しみの過去に。命よ響け、生きゆく未来に。私は今を生きていく。

安倍首相に、ぜひ読んで欲しい。

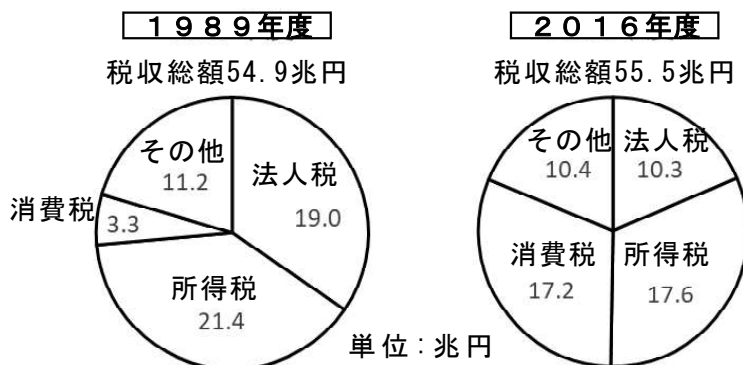
消費税は詐欺だ 即刻廃止すべき

10月15日、安倍首相は来年10月に消費税を10%に引き上げることを表明しました。社会保障や幼児教育無償化などのために必要だといいますが、これはほとんど詐欺です。

消費税が導入された1989年度と2016年度の国の税収を比較すると、消費税は3.3兆円⇒17.2兆円に、一方で法人税は19兆円⇒10.3兆円に、所得税が21.4兆円⇒17.6兆円に、総額では約55兆円でほとんど増えていません。消費税が14兆円増えましたが、法人税が9兆円減り、所得税が4兆円減っているからです。要するにこれまで増え続けてきた消費税は、ほぼすべ

て大企業と富裕層の減税の穴埋めに充てられてきたのです。社会保障のために全く使われていないことは数字が物語っています。

この事実は、ずっと以前から指摘され続けてきたのですが、どうしてマスコミはこのことを国民に知らせないのでしょくか。これでは「消費税が上がっても、社会保障は低下するばかり」というのは当然の結果です。子どもにも税金を払わせるような消費税は即刻廃止しかありません。



国の税収の内訳の変化(1989年度⇒2016年度)